

【ねがいましては】

第90号

平成8年11月27日

共和珠算学習塾

「譲り合う」

よく、車を運転していると、ところどころに「ゆずりあいましょう」などと標語がみられます。確かに「ゆずりあい」をすべての方々が守ったとしたら、事故数は激減すると思います。ほんの一瞬の自分が抱いた「欲」が自己へとつながるケースは多いはずです。

人々が皆ゆずりあってニコリ、笑顔でどうぞ・・・となればおまわりさんもきっと気持ちがだいぶ楽になるはずです。

自分は自分だけは得をしよう。どんなに小さくても自分だけは損はしたくない。誰もが抱きがちな「こころ」かもしれません。それを全く感じさせることの無い方に出会ったりしますと、とても心が安らぐを感じます。安心感が得られます。「どうぞお先に！」と何でも笑顔で対処される方です。いつもこんな方のようになれたらしいのにな、と思います。

子どもたちとのふれあいの中でも、「自分は自分だけは」と我が道を突っ走る子が見受けられます。そんな光景が見られる時、心の中では「ムツ・・・」。

ご家庭でも我が子が同じような言動をされると「ムツ」となるお母さんは多いのではないでしょうか。そんな時、突然お子さんが「お母さんお先にどーぞ」などと声を発したらどう思われますか。ここがほんのりホカホカされますか。それとも「こいつ、何をたくさんでいるのだ」となりますか。

普段、お子さんが他人に対してどのような接し方をされているのか、詳細に観察されているお母さんはいるはずがありません。お子さんの様子はどのようにお母さんの中へと入ってくるのか・・・。それはほとんどが第三者の方々からの情報になります。つまり「うわさ」というものなのでしょうか。結構この「うわさ」が人の人生を大きく左右してしまいかかもしれません。「あの子と遊んではいけません。あの子はね、町でも評判が悪い子なのよ」一例ですが、本人に会ったこともなく、顔も見たことがないにもかかわらずそんな言葉が飛び交っているとしたら、とても危険な行為です。それは「いじめ」の原因にもなりかねない危険な行為なのかもしれません。

そんなとき、先ほどの「ゆずりあい」の気持ちです。「そんなはずありませんよ、そういうことは本人に直接会ってみてわかること、悪いことを平気でできる子なんてそうはいません。もしもいたとしたら、なぜそうなるのか、きっと苦しいことがあったに違いありません。そのことを聞いてあげましょう。」

目の前にいる君、もし「ゆずりあうこころ」を持っているのであれば、君自身が苦しんでいる子のおはなしをとことん聞いてあげてください。

この世の中を、この重い空気で包まれた世の中を少しずつでよいのです。あたたかい世の中にていきましょう。君自身の中に、「ゆずりあい」のこころが宿っているのなら、きっとできるはずです。

目の前のケーキをカットします。あなたならきっと最後に残ったものをいただいますってフリーに言えるはずです。おそうじの時、最後にひととおりはき損ねたところはないかな、小さなごみは落ちてないかなと見渡してくれると思います。

そして「お先にどーぞ」って帰宅しましょう。